

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書①

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 III ・ V 】
2 実施対象者	学校名 : 岐阜県海津市立大江小学校 対象学年: 全校児童 61名 地域・保護者 1名 学校職員 14名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育 、学級活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 ② その他
4 目標 (ねらい)	■2016年リオデジャネイロ・パラリンピックの陸上競技（走り幅跳び）に出場し、4位に入賞した前川楓選手（チームKAITEKI所属）を招聘し、講演および実技指導を通して、スポーツに対する興味・関心を高めるよい機会とする。 ■スポーツを通して、パラリンピアンとの選手と触れ合うことで、障害のある方に対して、偏見や差別なく誰もがかけがえのない存在であることを学ぶ機会とする。
5 取組内容	■パラリンピアンによる講演会 (1) 日時：平成30年11月1日（木）9：40～11：00 (2) 講師：前川楓選手（チームKAITEKI所属） 女子パラリンピック陸上競技 走り幅跳びT42 リオデジャネイロ大会第4位入賞 (3) 内容：【第1部 講演会】 ① わたしのこれまでの経緯 ・事故によって義足に ・家族・友達の支え ② 自分の好きなことを大切に ・一生懸命に打ち込むことのすばらしさ 【第2部 実技講習＜体育館＞】 ① ストレッチ運動 ② 速く走るコツ

6 主な成果

■講演会後の児童の感想（一部抜粋）

低学年：・僕は、お話を聞いて願いをもつことが大事なんだと思いました。願いをもってあきらめずに頑張れば願いが叶うということがわかりました。僕も願いをみつけていきます。

・走り方を教えてくれてありがとうございました。これから頑張ってください。応援しています。僕も苦手なことがあります。でも、前川楓選手のように、苦手をなくしていけるように頑張ります。

中学年：・私は、前川楓選手はすごいと思いました。わけは、あきらめない姿がかっこいいからです。私はすぐにあきらめてしまうので、前川楓選手のように真似したいです。2020年のパラリンピックを頑張ってください。

・私は、前川楓選手の交通事故の話を聞いて感動しました。足がなくてもチャレンジしてみるなど、たくさん学びました。「足が不自由でもがんばればいい。目が不自由でもやればいい。」ということ。私の兄にも伝えたいです。兄は、片目が不自由だからです。前川楓選手といると、ずっと笑顔でいられました。2020年パラリンピック目指してがんばってほしいです。

高学年：・私は、前川楓選手の話を聞いて、事故にあってしまって悲しんでいたけれど、スポーツをもう一度やってすごいと思いました。また、どんなことにもあきらめず、自分のやりたいことがとても大切なんだと思いました。そして、これから、あきらめないで勉強やスポーツをやりたいです。



【第1部：講演会①わたしのこれまでの経緯
「競技用の義足に触れる子どもたち」】



【第2部：実技講習②速く走るコツ「跳躍しながら前進する・ストレッチ運動」】



【前川楓選手（チーム KAITEKI 所属）と全校児童の集合写真】

■成果

子どもたちは、パラリンピアンの前川楓選手（チーム KAITEKI 所属）の講演会や実技講習を通して、パラリンピックのスポーツについて理解を深め、パラリンピックのスポーツの意義や価値等に触れることができた。

「私のこれまでの経緯—好きを大切に！」というテーマで講演をしていただき、前川選手が障害を負った経緯や陸上競技をはじめまでの経緯、競技者として大切にしていること等、画像や映像を使って分かりやすく子どもたちに伝えていただけたおかげで、前川選手を身近に感じられ、生き方に共感することができた。また、前川選手の愛用している義足に触れることができ、義足の役割や機能についても知ることができた。

講演会後の子どもたちの感想の中に、「前川選手のように、苦手なことでもあきらめず頑張りたい。」「願いをもってあきらめずに頑張れば願いが叶う。」等、パラリンピックの価値（勇気・強い意志・インスピレーション・公平）に迫るような感想が多くあった。

7実践において工夫した点
（事業の特色）

■事前指導として、国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、パラリンピックについて学ぶ機会を各学年2時間のコマを設けた。※高学年は、そのうちの1コマをデジタル教材（早大オリ・パラ教育研究センター）の視聴して感想交流をした。

低学年：①パラリンピックの価値⇒「勇気」「強い意志」

テーマ「パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう？」

【児童の感想】

- ・生まれた時から膝から足がなくてもアメリカへ家族と別れて大学へ勇気を出してアメリカの大学を卒業して、車いすバスケットをやってすごいと思いました。私は、香西選手を応援します。
- ・私は今病気だけど、まっすぐになる香西選手を見て頼もしいなと思いました。私は、一度「無理」と言ったらあきらめてしまうので、香西選手のようになりたいです。



【低学年の事前指導の様子】

中学年：パラリンピックスポーツ

- ① 「ボッチャをやってみよう！」
- ② 「ガイドランナーを体験しよう！」

【児童の感想】

- ・ボッチャだったら体が不自由な人でも簡単にできる。体が不自由でなくてもみんなが楽しんで転がすことができる。
- ・ガイドランナーは、目が不自由な人でもコースから外れず、安心して走れる。ランナーもけがをしなくて済むからいいなと思いました。

高学年：パラリンピックスポーツ

- ① 「ガイドランナーを体験しよう！」
- ② デジタル教材（早大オリ・パラ教育研究センター）
「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦
車いすアスリート 副島 正純」

【児童の感想】

- ・私がガイドをした時は、ペアの人が物にぶつかったり転んだりしないようにタイミングに気を付けてガイドすることができました。
ガイドをされた時は、ガイドの人とタイミングを合わせて進んだり、ガイドの声をよく聞いて進むことに注意したりしながらできました。（中略）ガイドランナーの人は、目の不自由な人と声を掛け合って思いっきり走れるようにガイドをしていて、声をかけるのはとても大切だなと思いました。
- ・私は、これから先、事故にあって大変なことになって不安なことがあるかもしれないけれど、できることをしようとする前向きな気持ちが心に残りました。また、動く範囲が少なくなっても、勇気や楽しさ、車いすバスケットの楽しさがあるから続けてやっていることが分かりました。私はあきらめることが多いので、何事もあきらめずにやり遂げたいです。

- 地域住民約400件に対して、講演会のチラシを配布した。
- 保護者に対して、学校通信で前川楓選手についての紹介や講演会の案内を掲載し、啓発した。

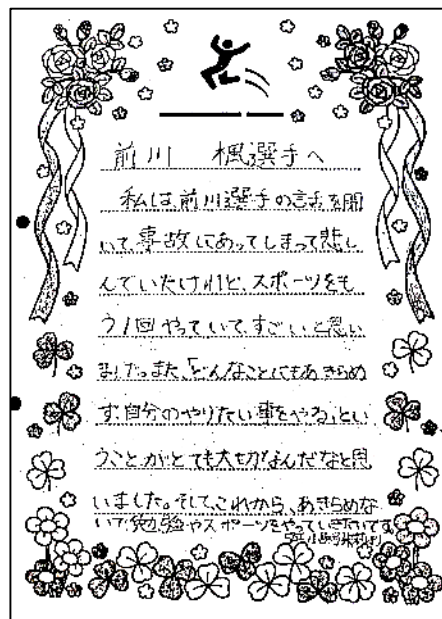
- 校内掲示版に、オリンピック・パラリンピックの概要や前川楓選手の歴代の記録についての紹介コーナーを設けた。



【校内掲示：2020東京五輪コーナーを設置】



- 事後指導として、講演会終了後各学級で学級活動を実施し、前川楓選手へ感謝の気持ちを伝えるお手紙を書く活動を行った。
講演会を通じて、一人のパラリンピアンとの直接的なコミュニケーションによって、何が心に残り、今後の自分の生き方にどうつながっていくのか、自己と対話をしながらリフレクションすることができた。前川楓選手と出会い、前川楓選手の生き方に触れ、パラリンピックへの理解を深める絶好の機会であったことが、子ども感想から垣間見ることができた。



【事後指導：学級活動

「前川楓選手へのお礼の手紙」

：高学年児童】

※後日、前川楓選手へプレゼントし、子どもたちのメッセージを送った。

- 2学期終業式の校長の話の中で、オリンピック・パラリンピックの話題を意図的にフィードバックし、意識化を図る



- ・11月1日のパラリンピアン講演会で前川楓選手の前向きな生き方に触れ心を打たれたことを振り返りながら、2体のマスコットキャラクターを取り上げ、それぞれの名前の由来を想起させた。パラリンピックのマスコットキャラクター「ソメイティ」に寄せられた思いを再確認する意識付けの場となった。

8主な課題等	■事前指導や講演会を開催したことで、子どもたちは「2020オリンピック・パラリンピック」への興味関心が高まってきた。このオリンピック・パラリンピック教育事業で終わるのではなく、今後もオリンピック・パラリンピック教育を授業や諸活動の中で無理なく継続していくことで、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを継承していけるのではないかと考える。
9来年度以降の実施予定	■2019年度は、2020年東京五輪の一年前なので、今年度が増して世論もオリンピック・パラリンピックの話題が増えてくることが想定される。 そこで、校内においても、今年度と同様に学校独自の活動（年間活動として、8の字縄跳びの取組、あやの花みつけ）を継続しながら、折に触れてオリンピック・パラリンピック教育を推進していきたい。今年度、学んだことをフィードバックしながら、子どもの心に根付かせていく指導をしていく。